

三者面談の前に 考えて ほしいこと

進路や学校生活などについて話し合われる三者面談。そこでは、親子や先生の間で意見の食い違いが生じるケースもある。そのような困った事態が起きないために、面談の前に考えてほしいことについて、高校進路指導の先生方に教えていただいた。

イラスト◎高村あゆみ

熊本県立済々黌高等学校
進路指導主事
篠塚 年洋 先生



教職歴 31 年目。同校に赴任して 11 年目。数学担当、男子女子ハンドボール部顧問を務める。「教え過ぎない」「与え過ぎない」「話し過ぎない」をモットーに生徒の自主性を育てる指導を心がける。学習と部活動の両立を目標とする「文武不岐」を理想に掲げた指導を行っている。

に聞く!

面談で困ったケース

志望校が「本人任せ」 から、保護者の都合 で急変!

私立も浪人も
ムリです…!



1・2年次の三者面談で、「志望校については、子どもに任せています」という保護者がいました。ところが、3年次の三者面談で、その保護者は「私立大も浪人もムリです。県外には出せません」と態度を一変。その場にいた生徒は「この成績では県内の大学はムリ、今更どうすればいいの」と唖然としました。



そうならないために…

日頃から、生徒自身が志望校について保護者としてしっかり話し合い、反対されても説得するくらいの熱意を見せることが大切です。その際、今後の成績の伸びしろなどを根拠に、主体的に志望校を考える姿勢を示しましょう。そうすることで、志望校への思いが強くなり、保護者も理解してくれるでしょう。

志望校については
親子でこまめに話し合う

その際、生徒が主体的に
志望校を考える姿勢を
示すことが大切

面談で困ったケース2

父母で意思の疎通がとれず、三者面談がゴタゴタに

3年次夏休みの三者面談には母親が来校し、志望校選びもスムーズに進んだのですが、3年次冬休みの三者面談には父親が来校。子どもの成績を見るやいなや怒りだし、三者面談がゴタゴタになってしまいました。父母で意思の疎通がとれていなかったことが原因です。



そうならないために・・・

保護者同士で意見が食い違わないように、普段から意見を交わしておく必要があります。受験で大変なわが子が悩むような言動を慎むためにも、保護者同士で意思疎通をしっかりと行い、子どもの成績や志望校について意見をまとめておいてほしいと思います。

日頃から保護者同士で
意思の疎通をしっかりと行う

わが子の成績や志望校について、保護者間で
意見をまとめておく



学校の指導が悪いからでしょ



面談で困ったケース3

成績が伸びないのは学校の指導のせいと責任を押しつける

幼い頃から医師を志す生徒の父親が3年次の三者面談に来校し、「成績が伸びないのは学校の責任。定期試験の問題は悪いし、教科指導も合っていない」と非難しました。さらに「子どもの受験指導は私がするので、余計な指導は無用だ」と協力を拒否する発言も・・・。



そうならないために・・・

子どもが安心して勉強に打ち込めるように、保護者が学校の指導を信用し、「親子と学校が一体となって志望校合格を勝ち取るんだ」という協力的な姿勢を示すことが必要です。そのために、日頃から親子で建設的な意見を交わしながら進路実現を目指してほしいです。

親子と学校が一体となって
合格をつかむという認識を

日頃から親子で建設的な
話し合いを重ねて
進路実現を目指す

面談で困ったケース4

データに基づいた 先生のアドバイスを 聞かない



3年次の三者面談では、データに基づいた進路検討会を経て、様々な経験値のある先生方からのアドバイスを伝えます。しかし、「子どものことは父親である自分が一番知っている」と、まったく聞き入れようとしない様子でした。



そうならないために・・・

家庭で育ててきた子どものことを知っているのは、親かもしれません。しかし、家庭で見せない学校での様子や成績などは、先生のほうがよく知っているのです。そのため、信憑性のあるデータや経験値に基づく、先生方からのアドバイスを信じてほしいと思います。

子どもの学校での様子や成績
を先生は熟知している

信憑性のあるデータと
経験値に基づく先生方の
アドバイスを信じてほしい



面談で困ったケース5

親が自分と同様、 受験の勝ち組になると 思い込む

保護者が医師・教師など「先生」と呼ばれる方だと、自分を受験勉強の勝ち組みだと思い、子どもも同じ道をたどると考える節があります。生徒は、「私は親とは違う」と面と向かってなかなか言えません。プレッシャーにつぶされそうな姿に、悲しくなるばかりです。



そうならないために・・・

まず保護者の理想を押しつけず、子どもも優先で話し合ってほしいと思います。いずれ子どもは親元を巣立っていきます。保護者が思っている幸せと子どもが思う幸せは違うこともあります。保護者として、子どもにとっての幸せを第一に考えてほしいと思います。

わが子を思うあまりの
過剰な干渉は控える

子どもの幸せを願い、
志望校や進路について
親子でしっかり話し合う

大阪府・桃山学院高等学校

進路指導部

嶋司 晃大 先生



数学科主任。生徒たちが失敗を恐れず、何事にも全力でチャレンジする楽しさを実感できるよう、工夫をこらした指導に力を入れている。「卒業生講演会」や「学級通信」などを通じて、生徒たちが大学での学びに触れて視野を広げる機会も与えている。

に聞く!

家から通える
大学にしたい!

イヤ!



面談で困ったケース6

自宅から通える大学か、 下宿が許されるか で揉める

生徒の志望校について、保護者に十分に共有されておらず、自宅から通学可能かどうかや、下宿をする場合でも保護者が安心できるエリアであるかどうかなどで意見が分かれ、志望校の選定に時間がかかってしまいました。



そうならないために・・・

三者面談の前に、大学名だけでなく、自宅から通学可能かも含めて具体的に保護者に伝えましょう。その際に志望理由も話しておくと、志望校について真剣に考えている姿勢が伝わり、理解を得やすくなります。

志望校の立地条件も含め、
親子でしっかり話し合う

その際、志望理由も伝え、
志望校への思いの強さを
保護者にアピールする

面談で困ったケース7

現役合格か、浪人しても 第1志望校を目指すか で意見が分かれる

現役合格か浪人覚悟で第1志望校を目指すか、親子で意見が分かれました。現役合格を目指す場合は合格可能性を考慮した併願校選びが、浪人を視野に入れるなら現役時に成績を伸ばせる受験校選びが必要でした。



そうならないために・・・

現役合格と第1志望校合格のどちらを重視するかを、親子で話し合って明確にしましょう。その際、大学選びでこだわるポイントや将来のビジョンを共有し、浪人にかかる費用や精神的な負担についても検討しましょう。

現役合格か第1志望校合格か、
優先順を明確に

その際、浪人に伴う
経済的・精神的負担に
についても話し合う

浪人はダメ!





面談で困ったケース8

子は勉強している、 親から見たらしていない とギャップ

保護者に家庭での様子を伺うと、「子どもは携帯を触っていたり、寝ていたりして、勉強していません」と答える場合があります。これは、親子間で学習量や質への認識にズレが生じているためで、「勉強している・していない」で言い合いになってしまいます。



そうならないために・・・

メリハリをつけて勉強する習慣を確立し、親子間の認識のズレを解消しましょう。また、手帳やアプリで学習時間・内容を可視化し、三者面談の前に先生に共有しておく、「実際にこれだけ勉強していますよ」と先生が面談でフォローしてくれることもあります。

メリハリのある**集中学習**で
親子の認識のズレを解消

努力を**可視化**することで
先生の支持も得て、
親子の信頼関係を築く

面談で困ったケース9

どこで何を勉強？ A・B判定がとれるのか？ と親が心配

夏以降の学習について、「子どもはどこで何を勉強するのか？ その結果、2学期の模試でA判定やB判定がとれるのか？」など不安を抱える保護者がいます。適切な学習計画に沿って、志望校合格に結びつくような勉強が本当にできるのかと心配するのです。



そうならないために・・・

三者面談の前に、夏以降に取り組む学習内容・時間・場所を具体的に書き出しましょう。三者面談時に夏以降の計画が決まっていなと、保護者の不安が増します。逆に、夏以降の学習内容を先生に相談しておく、納得して勉強を進められ、保護者も安心できます。

面談前に、夏以降の学習**内容・時間・場所**を書き出す

学習内容を**先生に相談して**
決めておくと、
安心感を得られる

自習室行ったら？

模試でA判定とれるの??
大丈夫なの???

